

訪問歯科診療時に遭遇した顎骨骨折

Jaw Fracture Encountered During Visit Dental Treatment

新井真澄

キーワード：訪問歯科診療、顎骨骨折、高齢者の虐待



(あらい・ますみ)

ICDフェロー
歯科医師
医療法人社団真潭会
新井歯科医院

I. 緒言

超高齢社会を迎え、臨床に携わる私たちにとって訪問歯科診療はすでに、日常の診療の一環となってきている。様々な疾患を抱えた高齢者に対して、自宅にあるいは施設に出向き診療をするときに、思いもかけない事態に遭遇することは少ないことではない。今回、訪問歯科診療先の某病院で不審な顎骨骨折を経験したので報告をする。

II. 症例

患者：78歳、男性

主訴：左下の歯牙の疼痛

既往歴：脊髄損傷とパーキンソン病

現病歴：5月3日頃より左下の歯が痛む

以下に初診時からの経過を説明する。この患者は、平成29年5月10日に入院先の病院から、歯が痛むという事で訪問歯科診療の要請があり治療を開始した。入院の原疾患は、脊髄損傷とパーキンソン病によるもので、初診時から意思の疎通に問題はなかった。レントゲンで確認したところ、痛みの原因は、左下第1大臼歯の齶蝕と左下第2大臼歯の急性化膿性根尖性歯周炎によるもので、第1大臼歯は間接歯髄保護処置、齶蝕処置を行い、第2大臼歯は感染根管処置を行った。その後、右下第1大臼歯にも痛みが生じたため、レントゲンで近心根に歯根破折を認めたため、分割抜歯を行った。

8月9日までは順調に治療が進んだが、夏季休暇をはさんだ8月23日に訪問したところ、8月12日に脳梗塞を併発し、その上、痰からMRSAを検出したためその日の治療は行わなかった。

8月30日、看護師より、上顎の歯牙が動揺して歯みがきができないという報告があり、診た所、右上中切歯・側切歯・犬歯・第1小臼歯・第2小臼歯・第1大臼歯・第2大臼歯、左上側切歯が著しい動揺を呈していた。前歯部は右上中切歯と左上側切歯を支台としたブリッジが装着されていたが、ブリッジごと動揺をしていた。特に動揺がひどかったのは、右上犬歯、第1小臼歯で、指で頬側をふれながら動かすと歯槽骨ごと動揺し歯肉からの出血も認められた。レントゲン



図1 初診時
Fig. 1 First visit



図2
Fig. 2



図3
Fig. 3



図4
Fig. 4

撮影により、動揺の原因は、骨折と脱臼によるものと分かった（図1～4）。

元々、患者は脊髄損傷とパーキンソン病でベッドに寝たきりの状態であったため、骨折の原因が何であるかを判断するために、看護師に確認したが、「くいしばりをするから」とか「口腔ケアの時に指ガードをかむから」という返答であったが、右上第2大臼歯は咬合に関与しないC4にも拘らず動揺していて（8月9日まで動揺はなかった）看護師の言うような理由は考えられない状態であった。歯肉と歯頸部からは瀰漫性の出血を認めたが、口腔外に皮下出血は認められなかった。その時の患者の状態は、脳梗塞の後遺症により意識は全くない状態であった。放置をした場合、骨壊死を起こす可能性があるため、抜歯と骨片の除去をするために口腔外科の受診を勧めたが、当時の病状から移送することはできないという主治医の意見だった。

9月6日に骨折している歯槽骨の非観血的整復をした上で動揺している歯牙をすべて結紮線を用いて、結紮固定を行った。8月30日にあった上顎右側側切歯の近心歯質は破折したようで根面のみが残存していた（図5）。

9月13日、20日は、看護師が怖いので、全く口の清掃はしていないという状態で痂皮やかさぶたでひどく汚れていたので口腔ケアを行った。

9月23日、患者死亡のため終了になった。死因については教えてもらえなかった。

Ⅲ. 考察

高齢者の骨折はそのほとんどが転倒によるもので、

好発部位としては大腿骨頸部、胸腰椎、上腕骨頸部、橈骨遠位端となっている。対して顎顔面部の骨折については、下顎骨骨折が最も頻度が高く、色々な統計により約7割を占めているのに対して、上顎骨の骨折は1割程度にすぎない。今回の症例については、寝たきりの状態にあり、看護師からの聞き取りにより、ベッドからの転落などの事実がないため、又、転倒・転落に伴うはずの皮下出血もないため、どのような過程で、骨折が生じたのかは不明であるが、このような骨折を生じさしめる原因の1つとして、緩徐な強い外力（例えば素足でゆっくりと踏むなどの）が加わったことが考えられる。

Ⅳ. 結論

今回、訪問歯科診療で遭遇した原因不明な上顎骨折を経験したので、報告した。

安易にこのような事案に対して疑いを持つことは避けなければいけないが、今回は、たまたま整復固定を行っている時に居合わせた家族の反応や、主治医の反



図5
Fig. 5

応が判然としないものであったことから疑問を感じざるを得なかった。

昨今、報道等で、病院、施設あるいは身内による高齢者の虐待の問題が取り上げられている。学校歯科健診で、児童虐待の発見に歯科医師が大きく係わる可能性が言われているが、高齢者の虐待の発見についても歯科医師が係わる事態がこれから生じてくるかもしれ

ない。この事例を通じて虐待あるいは事故、事件を発見することの困難さ、又、それを次のステップにつなげることの困難さを身をもって体験した。

あってはならないことではあるが、残念ながら発生を食い止めることは難しいと思われる。疑わしい症例が発生したときに私達はどう対処すればよいのかを今後も考えていきたいと思う。

●抄録● 訪問歯科診療時に遭遇した顎骨骨折
／新井真澄

ある病院での訪問歯科診療時に不審な顎骨骨折に遭遇したので報告する。

高齢者の骨折の原因は、転倒によるものがほとんどである。この症例の場合、寝たきりで看護師の話からは転倒、転落の事実もなく、皮下出血も認めないため、どのような過程で骨折を起こしたかは不明であるが、緩徐な強い力が加わったことが考えられる。

最近、病院や施設の職員、家族から的高齢者への虐待が報道されている。学校歯科健診で児童虐待の発見に歯科医師が係わることが言われているが、高齢者の虐待の発見にも歯科医師が係わる事態が生じる可能性がある。

キーワード：訪問歯科診療、顎骨骨折、高齢者の虐待

Jaw Fracture Encountered During Visit Dental Treatment

Masumi ARAI D.D.S., F.I.C.D

I visited a hospital and I treated a suspected jawbone fracture and as a result, I report it.

The reason why elderly people fracture their bones is mostly due to falling down. In the situation, the patient was bedridden, as there was no evidence of falling due to the nurses, and there was no subcutaneous bleeding which would accompany falling, and as a result fractures occur.

Although it is unknown why this occurred, it is considered one of the reasons for fractures, occurring as strong external pressure was applied slowly.

In recent years, the issue of abuse of the elderly in hospitals, nursing homes or by family members is written in reports, etc.

School dental checkups are said to be reasons why dentists are involved in child abuse and neglect, and dentists may be involved in the discovery of abuse of the elderly from this period onwards.

Key words : Visit Dental Treatment, Jaw Fracture, Abuse Of Elderly People